

めでいかすどる
Médicastre



「 はまなす(浜茄子) 」

平成17年度保健事業推進功労厚生労働大臣表彰式

日 時：平成17年10月5日(水)

場 所：厚生省中央合同庁舎

鶴岡地区医師会が平成17年度保健事業推進功労厚生労働大臣表彰の榮譽に授かり、さる10月5日厚生省中央合同庁舎で行われた表彰式に齋藤会長が出席し、厚生労働大臣（代理：御園審議官）より表彰状と記念品を授かってまいりました。

今回の受賞は、市町村が実施する老人保健法による保健事業に積極的に協力し、地域住民の健康管理、健康意識の高揚等の保健活動に過去10年以上にわたり貢献し、今後もその事業活動が保健事業の推進に寄与することが期待される団体に該当し授与されたものです。当会を含めて全国で9団体が選ばれましたが、

医師会としての受賞者は当会だけです。また、市町村を対象とした表彰も行われ、保健事業の推進活動において他の模範となる市町村として、全国で17市町村が表彰され、本県では山形市が該当しました。

当会での大臣表彰は、平成6年の地域救急医療体制の確立に功績があったものとして表彰されて以来2度目です。会員、職員並びに関係団体からのこれまでのご支援・ご協力に対して厚く感謝を申し上げます。



『COPD の診断と治療』

至誠堂総合病院 院長

高橋 敬治 先生

慢性閉塞性肺疾患(Chronic Obstructive Pulmonary Disease = COPD)は、これまでわが国では、慢性肺気腫および慢性気管支炎としていた閉塞性障害を伴う呼吸器疾患であり、その病因の共通性から統合された国際的疾患名が COPD である。その病因としては 80~90%のリスクで喫煙が関与する。COPD は喫煙習慣に加えて加齢とともに増加する。わが国の 40 歳以上人口の 10.9%がこの疾患に罹患していることがわれわれの全国調査で明らかにされた。喫煙習慣の蔓延と高齢化が進行するわが国においては、今後ますます増加が予測される生活習慣病である。われわれの予測では本邦においては約 530~600 万人前後の患者が存在していると考えられる。人口 130 万人の山形県では約 6 万人、人口 10 万人の鶴岡市においても約 5 千人程度の患者がいると推定される。この疾患の診断上の最大の問題は、他の生活習慣病と同様に、疾患が発症してから呼吸困難、息切れなどの自覚症状が発現するまでの期間が極めて長いことである。そのために医療機関を受診するタイミングが遅れ、早期診断、早期治療が遅れてしまうことである。この疾患の取り組みに対する医療者側の問題点として、この疾患に対する理解が必ずしも十分でないこと、また閉塞性障害という機能的診断には必須であるスパイロメーターの使用に対する第一線の先生方の違和感があることである。患者の努力を要する検査法であるからである。最近では極めて小型で、外来において診察時に医師自身が簡単に行なえるスパイロメーターが開発されている。40 歳以上の喫煙者で、咳、痰が持続するひと、労作時の呼吸困難を感じて訪れる外来者には医師自身が外来診察室で測定するオフィス スパイロメトリーをお勧めしたい。また成人病検診の項目にスパイロを加えていただきたい。1 秒率 70%以下でこれを疑う。COPD の中で日本人に多いのは、肺胞が破壊される肺気腫型であ

り完治できない。またこの疾患が進行した場合の自覚症状は強い呼吸困難であり、このため日常生活が著しく制限される。COPD の呼吸困難は吸気困難であり、吸気容量(Inspiratory Capacity = IC)が減少するためである。IC とは一回換気量と吸気予備量の和である。すなわち安静呼気位が上昇して、肺が過膨張になり、吸気容量が減少するためである。COPD の治療は禁煙が第一であるが、気道を拡張させ、安静呼気位を減少させることが、吸気容量を増加させることが呼吸困難の解消につながる。安静呼気位を減少させて呼吸困難を少なくする薬物としては、抗コリン薬の吸入がある。これにベータ刺激薬の吸入あるいは貼付薬を用いること、さらにはテオフィリン薬の内服も有効である。吸入ステロイド薬は重症例に対しては QOL を改善する上で有用とされる。高齢者に多い COPD の治療薬としては一日一回の吸入で済む抗コリン薬と一日一回の貼付で済むベータ刺激薬の併用が薬物使用のコンプライアンスを上げる点で今後推奨される治療薬となるであろう。最近では肺気腫型に対しては症例によって、外科的に治療する容量減少手術(Volume reduction surgery)が有用であることも知られている。COPD の急性増悪の原因となる呼吸器感染症の予防にはインフルエンザ ワクチンや肺炎球菌ワクチンが推奨される。まず早期診断、早期予防対策が大切であり、進行した症例に対しては薬物療法、酸素療法、肺理学療法、栄養指導などの包括的治療法を導入する。

人間ドック結果個別相談会・講演会

今年度、第二回目となる個別相談会、講演会を開催しました。今回は個別相談者を事前に予約を取り、午後4時30分より開催しました。事前予約者は30名でしたが終わってみれば39名の個別相談を中目先生と保健師3名で講演会開始ぎりぎりまで行いました。大変

お疲れ様でした。一階の検診ホールを血圧測定、体脂肪測定、各フィルム展示等、個別相談会場にセットして行いました。前回より人数が多かったのですが混み合った感じが全然なく参加者も健診時より和やかに会話をしながら、様々な質問等を職員にしていました。

講演会は3階講堂で行いました。参加者は熱心に聞いている方、メモを取る方が多く、講演の先生方も時間を超過し大盛況で終了しました。参加者の方々から「とってわかりやすけ、また来っさけの一」と声をいただいております。
(管理課 若木)

平成17年9月29日(木)		
結果個別相談会	16時30分から	39名
講演会	18時30分から	72名
「腰痛の原因と対策」		上野欣一先生
「肥満と生活習慣」		中目千之先生

次回予定

平成17年12月15日(木)

健診結果個別相談 16時30分

講演会 18時30分

「認知症(痴呆)とうつ病」

「ドック腹部超音波検査で

わかる病気」

中目千之先生



釣りでの出来事

いやあ釣りとはとんでもないことが起きるものですね。些細なことなんですとのところであの世に行こうとしたんですから。事の顛末をまあ聞いてください。

今回も釣り大会には新潟東港しかないということで雨の中を総勢4名で晴れる事を祈りながら出発した。前日の出発は去年良く釣れた場所を下見をしようというわけだ。近くまで来て道に迷い、エエイ適当に走れとばかり狭い通路を入っていったら見覚えのある地点へ着いた。庄内ナンバーの車もなし、これでゆっくり楽しめると試し釣り。早速黄鯛が釣れて、明日に釣れればよかったのにと悔やんだが後の祭りだ。

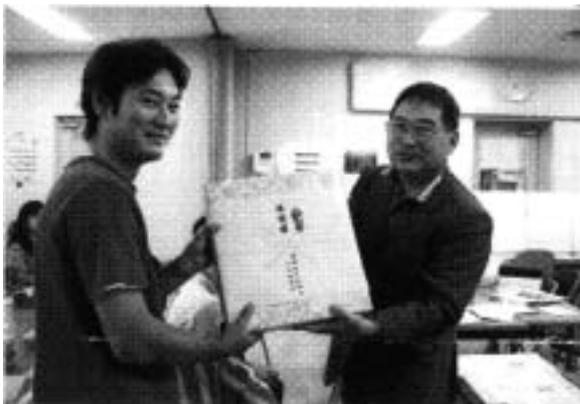
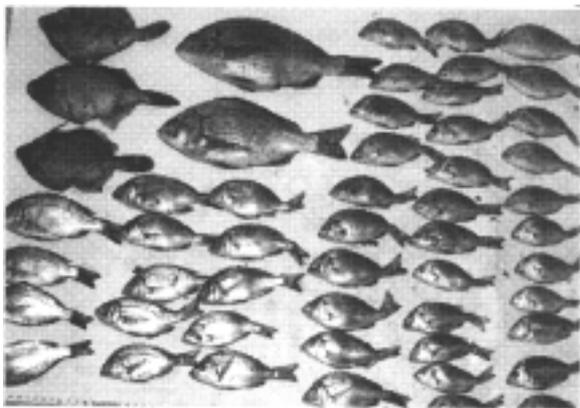
翌朝5時出発。釣り場へ直行し雨の中で竿を出す。篠小鯛や真鯛の子やアジが釣れてきたが、初心者は仕掛け作りやエサ付けでもたもたしていた。でもあまり構ってやれない状況だ。雨は降るは風は吹くはで最悪の条件ではあったが釣れていたのも夢中になっていた。一段落したので遅い朝食をしようとコンビニのおにぎり（前回は弁当で失敗したので）を食べ始めた。

おにぎりを頬張っているとギギギと当りがある。竿を上げると型の良い篠小鯛で、上げた途端針が外れて道具入れに刺さってしまい、両手を使わないと外せない。左手の残りのおにぎりを口に入れ飲み込もうとしたらそれが喉につかえてニッチもサッチもいかない。呼吸は出来ず苦しいの苦しくないの。段々気が遠くなってしまったがここで逝くわけにもいかず、急いで仲間の背中を叩き、自分の背中も叩いてもらう。やっと息ができた時のうれしさ！！もう少ししてお陀仏であった。その後は何事もなかったように釣り続けた。

そういう訳だったんです。

それでは釣り大会の結果をお知らせします。（敬称略）

優勝	佐藤 洋司	小物賞	佐藤 洋司（全部で 66、篠 48）
準優勝	菅原 翼	外道賞	佐藤 洋介（タコ）
三位	佐藤 元昭	珍魚賞	佐藤 元昭（フッコ）
四位	清和 聡彦	五目賞	清和 聡彦（11種）
五位	井上 祐司	大物賞	斎藤 高志（タカバニオ 2、タナゴ 1）
B B	佐藤 賢	ラッキー7	佐藤 耕一
B M	真島 吉也	大会賞	柿沼 恭央（17位）



山形県准看護学生親善体育大会

日 時：平成17年9月22日（水）

名称は県大会でも参加校は酒田と鶴岡の准看護学院。それでも当番校として学生は企画・運営の1年間を今後経験することはないと思います。競技に勝つために必要なこと、リーダーシップをとることの難しさなど、机上では絶対学ぶことのできない必要なことを体験することができました。

結果は午前中行われたレクリエーションの部では2年生が2年連続1位、1年生が2位と健闘し、午後のバレーボールでは2年生が昨年のビリから1位となり、1年生はバレーボール未経験者のみのメンバーでやはりビリ。男子も酒田に負けました。反省会では後悔する事が多く、状況を知らなかった1年生は来年へのリベンジを誓っていました。

スナップ写真を見る限り学生に笑顔が多く、楽しかった体育大会だったと思います。以下は学生の感想文です。

実行委員長 忠鉢 将明

昨年の大会が始まる前から実行委員に指名され、言われるままに委員長になり大会が近づくにつれ何か忘れていくことはないかと考えるほど不安がどんどん大きくなりました。当日準備が始まり競技が進行している間も不安は消えることなく、閉会式が終わり、反省会が終わったところでやっと解放された気分になりました。企画・物品の準備・役割分担は副委員長の2人が仕切ってくれました。実行委員だけでなく、1・2年生、教務の方々すべての人たちの協力があったから大会を成功させることができたのだと思います。精神的にも肉体的にもきつい仕事でしたが、充実感を味わえる仕事だったと思います。

1年 高橋 栗々子

私にとって数年ぶりの体育大会に参加して、とても楽しむことができました。綱引きで1回も勝てなかったのは悔しかったのですが、いい思い出になったと思います。みんなでジャンプでは、失敗した後また始めるときに、みんなの呼吸が合わず、かなりの時間を無駄にしまいました。気持ちを一つにしてうまく跳ぶにはもっと練習が必要だと思いました。私もやる気だけはあったのですが、自分でも驚くほど身体がついてきませんでした。まだまだ大丈夫と思っていても使わない間に筋力は衰えていたようです。このままではいけないと感じたので体力づくりを始めようと思います。そして来年は2年生のようにみんなで勝てたらいいなと思います。

体育委員の方々や先生方、とても思い出の残る大会にしてくれてどうもありがとうございました。



私のお勧めの店

その1

横山 靖

秋から冬に向かう季節、温かい蕎麦はいかがでしょう。

私のお勧めの品は、『売虎庵(ウルトラアン)』の鳥南蛮と『蕎麦福(そばふく)』の鴨そばです。さて二つの蕎麦には共通点があります。それは二品とも、具のネギが焼いてあることです。主役の一つはネギ、そしてもう一つは鶏と鴨です。

まず『売虎庵』さん、温海町の国道7号線沿いの鈴という集落にあります。ここの鳥南蛮の鳥が素晴らしい。まさに地鶏、しっかりした歯ごたえ、噛めば噛むほど旨みを感じさせる肉質。これを地鶏とするなら、他の店の鳥や、肉屋で売っている地鶏は、地鶏ではありません。鶏肉と言うものが空を飛んでいた筋肉だということを実感させます。そしてネギ、焼くことによってネギ本来の甘みが発揮され、これに焼いた香ばしさが加わります。このネギ、例の地鶏と一緒に焼かれ供されるのですが、鳥、ネギともブランデーや白ワインでフランベしたような、とてもよい香りがします。お店の人に聞いてみると、フランベはせず、また油もしらず焼いただけで、その風味は素材そのものの味、ということでした。温かい蕎麦は基本的には二八蕎麦(蕎麦粉8に対し、つなぎが2という割合)ですが、蕎麦の風味が豊かで、細めの蕎麦です。ある曇りの日、食べに行くと、蕎麦がいつもよりわずかに太いような気がして、聞いてみると天気により微妙に蕎麦の太さを変えているとのこと。店主の蕎麦へのこだわり、愛情が感じられるようでした。蕎麦つゆはカツオ節が主体で、気品のある味わい。この温かいつゆ、一口吸えばカツオ節をはじめ、どれもとてもよい素材が使われていることが十分わかります。

『蕎麦福』さんは新形町にあります。鴨肉とネギが特製のタレで焼かれ、そのまま肉汁のたっぷりのタレと一緒に蕎麦に乗せて出されます。その結果、鴨そばはとても濃厚な味わいとなります。タレの材料は、醤油にお酒、それ

に調味料が加わるということでした。このタレのからんだ鴨肉がおいしく、脂身などとてもジューシー。さらにネギ、焼かれたことによる甘みや香ばしさが加わっただけでもおいしいのに、さらに鴨の肉汁やタレを十分吸ったネギは本当に美味です。お酒の肴としても鴨焼きを出しますが、常連さんは鴨肉よりネギの方を多くしてくれ、と頼む方も多いそうです。蕎麦の方は繊細な感じで、あまりつなぎは使っていない印象、十割に近いのでは。すーっと通ってゆく喉ごしが心地よく、繊細な分、温かい蕎麦で食べると、蕎麦の風味が増す感じがします。つゆの方は、辛目のしっかりした味わいで、そこに鴨のタレが乗り、甘みが加わります。さらにうれしいのは、薬味に柚子コショウが付いてくることです。まずは薬味を入れず蕎麦を食べ、その後、柚子コショウを入れます。これがまた鴨肉やネギと合うのです。そして柚子コショウの効いたつゆは、一段と旨みを増し、汗を拭き拭き、夢中になり蕎麦をむさぼる自分に気づくのです。

素材そのもののうまさを生かした『売虎庵』、タレや薬味で素材に一工夫加えた『蕎麦福』、どちらもお勧めです。



蕎麦福の鴨そば

マイペット&マイホビー

— 第26回 —

今野 裕

ゴルフ仲間では、75歳以上になると「グランドシニア」と呼ぶそうだ。

堅苦しい年、熟年などと呼ぶよりか、中々綺麗な美しい言葉で、しかも洒落てる。私の大好きな言葉でもある。グランドシニアにとって、一日一日を愛しむ気持ちは、年をとると共に強まる、私たちの願望でもあります。元気で動けるうち、何処へでも行って美味しいものを食べてみたいし、出来るだけ休日などを有効に使うよう心掛けてるつもりだが、はたして何時頃まで続くかはまったく予想もつかないし、神ぞ知るのみと云うところでしょう。

グランドシニアにとって、無趣味な程、味気ないものはないし退屈である。今更慌てても仕方がないし遅い。遅蒔きながら反省の日々を送るしかないようだ。たかが一日、されど一日の繰り返しで今年も早や後半、月日の早さは年ごとに早く感ずるこの頃です。現在鶴岡市で運営しておるリハビリ教室の健康相談を受け持っている関係で、『老人向けいろは川柳』を紹介したら「『ぼけ防止』のカルタ」に適しているというご意見を頂戴した。ぜひ活用していただけると有難い。これまでの原稿依頼催促の責務を果たすため、私は全体としての語呂の不備不満あるものこの際未完のまま投稿することにした。御了承下さい。

【わかりやすい老人向けいろは川柳あれこれ】

- ㊦ 急いでは 何の得にもなりません 休んで明日の糧とする
- ㊧ 老人に 出来る事だけ やればいい
- ㊨ 八十歳 二十の歯をば 残すべし
- ㊩ 入浴は 熱湯の長湯は 禁物だ
- ㊪ 呆け防止 手と足頭 みな使え
- ㊫ 平凡に 生きるが勝ちだよ これからは
- ㊬ とびついた この病なら 巴投げ
- ㊭ 近くなら 歩いて行こう ゆっくりと
- ㊮ りんとして 治らぬ病は 寄せつけず
- ㊯ 濡れ若葉 ならぬ工夫を 日頃から
- ㊰ 留守番を 頼まれ心 引き締まる
- ㊱ 尾長どり まねて生きよう 夫婦仲
- ㊲ わが人生 悔いを残さず 生き生きと
- ㊳ 過去のこと 振り向かないで 生きるべし
- ㊴ 欲張らず 何につけても 控えめに
- ㊵ 誕生日は 検診日と 決めておこう
- ㊶ 歴然と 損なことには 手を出さぬ
- ㊷ そんなこと 言われたからと言って 腹立てず
- ㊸ つくすだけ つくしておけば あとが楽
- ㊹ 願わくば 白寿を越えて 百までも
- ㊺ 長生きは 生活習慣 整えよ
- ㊻ 楽をして これまでの苦勞 ふっとばせ
- ㊼ 無理をせず 身体に聞いて 動くべし
- ㊽ うっかりし 火の元注意 忘れずに
- ㊾ 井のかわず 何故そこに居るの 外に出て
- ㊿ 飲むのも食うのも腹八分目 病なし
- ㊠ 老いてこそ 迎えが来ても 追い返す
- ㊡ 苦しみに 耐えたからこそ 追い返す
- ㊢ やるべきは やっておけば 得となる
- ㊣ 前を見て 右も左も 気をつけよう
- ㊤ 怪我は長寿への赤信号 寝たきり防止に努めよう
- ㊥ 不眠症 早く寝るより 早起きを
- ㊦ 恋するは 老いも若さを保つ 秘訣なり
- ㊧ 得手不得手あっても 挑戦するファイト忘れずに
- ㊨ 手も足も 鍛える程に 若くなる
- ㊩ 飽きたとて やる気なくすは 老化の始まり
- ㊪ 酒タバコ どれでもみんな 控え目に
- ㊫ 気は長く 心まろやか 腹立てず
- ㊬ 行く年も 来る年も安泰で やる気を忘れずに
- ㊭ 目と耳は 不自由なれど まだ元気 人生楽しく 何時までも
- ㊮ 見て聞いて 読物よんで 話すこと 身も心も 軽く 澁刺と

- ① 心配せず何事も 心の準備運動 怠るな
- ② 絵に描いた だるまのままでは 損をする
- ③ 彼岸花 そんな花より 極楽草 遠のいてくれ
よ 死の世界
- ④ もがいても これからはあとがないよ しっかりと
- ⑤ 背を伸ばし 屈伸運動欠かさずに 自分の人生
楽しもう
- ⑥ スポーツは 程よく汗を 流すだけ

荘内病院

小児外科 渡邊 真実 先生

平成16年の4月より荘内病院小児外科を担当させて頂いている、渡邊真実と申します。医師会の先生方には平素より、大変お世話になっております。私は、新潟市出身で、平成13年信州大学卒業と同時に新大の医局に入りました。鶴岡に住んで1年半になりますが、大学6年間を過ごした松本と同じく山に囲まれた城下町はとても落ち着き、人も温かく、食べ物もおいしくて、大好きな土地となりました。

今回は、今年のモンゴル旅行についてお話ししたいと思います。

—*— *— *— *—

平成16年9月、モンゴル旅行に行ってきました。パートナーは大学時代からの親友で、呼吸器外科医(女性)です。彼女との毎年夏休みの旅行は恒例になっており、ゴビ砂漠が見てみたい！という

安易な発想と僻地指向？からモンゴルに決まりました。

(ちなみに前年はシベリア鉄道に乗りたい！

ということで極東ロシアを訪れました)。

旅行書によると首都ウランバートルからゴビ砂漠までは国内線の飛行機で1時間。砂漠ではツーリスト用のゲル(モンゴル遊牧民の白い移動式住居がツーリスト用に用意され、食事やシャワーなども提供してもらえる)に宿泊し、快適に砂漠の生活を体験できるということでしたが、いざ、旅行会社に連絡を取ってみると、9月は観光シーズンが終了しているため、国内便は出でおらず、片道2日、卓での移動のみということでした。火がついてしまったゴビ砂漠熱はもはや消すことばできず、車でゴビ砂漠を目指すこととなりました。3泊4日の過酷なゴビ砂漠への旅行メンバーは、私と友人、日本語を勉強中の20才のモンゴル人の女性ガイド、そして運転手の陽気な40才のモンゴル人男性の4人。壊れそうなロシア製ジープにテントと寝袋、4日分の水分と食料とカセットコンロをのせて、朝方まだ暗いうちにウランバートルを出発しました。

セーターの上にダウンジャケットを着ても震える寒さの中、延々と続くモンゴルの大平原の道なき道を、激しい揺れでジープは進みます。食事の時間になると、車を止め、羊肉を炒めたり、ごはんを炊いたりしてエネルギーを補給。途中、ラクダや、羊、山羊の大群に遭遇すると、記念撮影。遊牧民のゲルをみつけると、そこを訪ね、馬乳酒や、山羊のチーズ、羊の内蔵の薫製などで歓迎され、ひとなっっこい笑顔に癒されました。トイレの時には4人が車から降り、それぞれ違う方向へ、なるべく遠くに走りまわりました。1日目



モンゴルの大平原で動物たちに囲まれて。
右が私です。

の夜は、みんなでテントを張り、寝袋を二重にして寝ました。

2日目もひたすら大平原を走ります。夕方、やっと、砂漠近くのツーリストゲルに到着し、その晩は、そこでの羊肉のディナーを楽しみ、宿泊となりました。疲れた体をベッドに横たえてしばらくすると、強烈な嘔気が私を襲いました。隣を見ると友人も、「気持ち悪い……」と顔を青くしています。その晩は二人とも一晩中、繰り返す嘔吐と闘い、一睡もできませんでした。あとから知ったのですが、日本人には、食べ慣れない羊や馬や山羊のミルクや肉に対する消化酵素が無い(医学的なことはよくわかりませんが)、旅行者が調子に乗って食べ過ぎると、こういう結果になるそうです。

3日目の朝、砂漠に向けて早朝出発です。まだ私たち二人の嘔気は続き、食事もとれずに、ジープの後部座席でぐったりと寝ていると、昼過ぎにやっと、ゴビ砂漠に到着しました。念願のゴビ砂漠を前にしてもまだ体調不良は続き、腹膜としており、一応はしゃいで写真を撮りあってはみたものの、実際の記憶は定かではありません。目的地に着いた私たちは、そのまま、帰宅の途につきま。夕方、今晚の宿泊地に、みんなでテントを張りました。その頃には体調も回復しましたが、羊肉は、臭いも受け付けなくなっており、塩だけのお粥を炊いて食べました。そのおいしいことといたら！！その後泥のように眠りました。

4日目の朝、まだ暗いうちに目覚め、寝袋にくるまりながら、テントから友人と二人顔を出して、人工の光の全く無い、360度水平線の星空を仰ぎました。そして、徐々に東の空が明るくなり、日の出を迎えました。私は今まで、これほどまでに美しい景色を見たことはありません。そして、また、旅は続き、4日目の夜、雪の舞う、ウランバートルに帰り着きました。

終わってみれば、貴重な楽しい旅でした。モンゴルの自然の美しさと厳しさ、そしてそこで暮らす人々の強さと笑顔に心を揺さぶられました。でも、今度ゴビ砂漠に行く時は飛行機で行きます。そして、これから一生、羊の肉は食べられないと思います。

旅行から帰って二週間後、友人から電話がありました。なんと、妊娠二ヶ月ということが発覚したということです。(注：彼女には結婚を考えている彼がいました。決してモンゴルでの出来事ではありません)！！話を聞くと、二人で嘔吐した夜から、彼女はずっと嘔気が続いていたそうです。ちなみに私は残念ながら、ただの食あたりだったよう

です。

そして彼女は結婚し、モンゴルの大平原で息づいてた小さな命は、今年5月に元気に産声を上げ、おおらかに生きてほしいという意味を込め、悠生(ゆうき)と名付けられました。悠生くんが大きくなるまでは、友人との冒険旅行もしばらくおあずけです。私としても、旅行兼人生のパートナーをそろそろ見つけたいところです…。

- *- *- *- *- *

最後になりましたが、まだ経験も浅く、皆様にご迷惑おかけすることも多々有ると思いますが、精一杯がんばりますのでこれからもよろしくお願いいたします。

「はまなす」

上 野 欣 一

8月中旬に、”世界自然遺産”に登録された知床半島に行って来ました。そこで、最盛期は過ぎていましたが、有名な”知床旅情”の歌詞に出てくる「はまなす」の花とその果実を見つけました。

「はまなす」は本来「はまなし（浜梨）」が訛ったものとか。バラ科の落葉小低木で、夏に紅色のバラに似た芳香ある美花を開き、扁円形の果実をつけ、甘酸っぱい味がするそうです。

～ 編 集 後 記 ～

朝夕の気温が下がり、昼も過ごしやすい季節になってきました。我が家の猫の額ほどの坪庭の金木犀が、芳香を放っています。そろそろ、紅葉の声も聞こえてきていますね。

今月号から、横山先生の「私のお勧めの店」連載が始まりました。鶴岡にUターンしてから、もう7年になりますが、まだまだ、知らないことがたくさんあります。もともと、食いしん坊のせい、美味しいものを食べるのが大好きです。この原稿を読んで、是非、行ってみたいと思いました。

はるか30年前の学生時代、B級グルメなどという言葉がまだ無い頃、オムライスに凝って、あちこちのお店に行った事を思い出しました。オムライスは作るのに手間がかかり面倒なため、その当時は、お子様専用メニューだったり、注文すると嫌な顔をされるが多かった覚えがあります。それが、いつのまにか、バブルの時代を経て、「町の洋食屋さん」がブランドになり、オムライスやハヤシライス、ビーフシチューなどを売り物にするお店が増えてきました。子供限定と書いてあるメニューを眺めつつ、無理やり頼み込んでこっそりオムライスを作ってもらっていたことを考えると、感慨深いものがあります。

私が一押しのおムライス、お知りになりたい方には、こっそりお教えします。

「マイペット&マイホビー」も毎回楽しみにしています。執筆してくださる先生方の、知られざる素顔が垣間見えて、ほのぼのするひと時です。今月号の今野先生の川柳も、「老人向け」とされていますが、とんでもない、老若男女に共通するものですね。思わず、「う～ん」とうなりながら拝見しました。

「めでいかすとる」もいかにマンネリ化せず、読者の皆さんに楽しんでいただけるか、編集委員も四苦八苦しています。投稿大歓迎ですが、読后感などもお寄せいただけると、私たちの励みにもなりますし、今後の参考にさせていただきます。

(福 原 晶 子)

編集委員：伊藤末志・三原一郎・中村秀幸・石原 良・福原晶子

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1- 34

TEL 0235- 22- 0136 FAX 0235- 25- 0772 E-mail tsurumed@mwnet.or.jp

URL <http://www.mwnet.or.jp/~tsurumed/>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町 27- 1 TEL 22- 0936(代)